

ASEAN+3 各国の財務高官、金融市場関係者らが参 加

アジア開発銀行（ADB）主催のアジア債券会議

〔フィリピン・マニラ、2007年10月26日〕 -アジア開発銀行（ADB）は来る11月2日（金）、現地通貨建てアジア債券市場育成のための会議を都内で開催する。各国政府官僚や、アジアや欧米を代表する投資銀行、格付機関の関係者らが一堂に会し、投資先としての現地通貨建てアジア債券の現状と課題について、議論が行われる予定。

この会議は「[アジア債券投資コンファレンス -アジアの投資家への機会-](#)」と題し、ADBが日本財務省とタイ財務省と共催で初めて企画・開催するもの。主に日本国内の機関投資家を対象に、アジアの現地通貨建て債券についての理解を深めてもらうことを目指す。

その背景には、日本の長期クロスボーダー債券投資残高に占めるアジアへの投資の割合がわずか0.7%にすぎないという事実（世界全体では2.6%）がある（2005年末時点）。

こうした状況につきADB地域経済統合室（OREI）のJong-Wha Lee室長は、「投資資金の流れを、アジアとりわけASEAN+3（日中韓）の現地通貨建て債券市場に還流するチャンスがあるとみている」と語る。「それにより、新たなアセットクラスが生

お問い合わせ先

駐日代表事務所

広報担当：望月 章子

T: +81 3 3504-3441/3160

E-mail: amochizuki@adb.org

ADBのニュースリリース（和文）は、下記URL

にてご覧いただけます。

<http://www.adb.org/JRO/doc-news.asp>

まれ、アジアの大型インフラ投資案件などに資金を呼び込む仕組作りにもつなげることを目指したい」。

会議では日本財務省の篠原尚之財務官が歓迎の辞を述べた後、タイ財務省のチャロップ・スサンガン蔵相が基調講演を行う。続くセッションには、韓国、マレーシア、シンガポール、ベトナム、フィリピンの財務省や中央銀行等金融当局がパネリストとして出席予定。

さらに民間からは、みずほグループ、野村グループ、三菱UFJグループ、大和証券SMBC、ピムコ、ムーディーズ、S&P、フィッチ、日興シティグループ、モルガンスタンレー、ゴールドマンサックスといった大手企業も、討議に加わる予定（プログラム詳細は、<http://www2.convention.co.jp/asiabonds2007/ja/program/>）。

ADBは2003年ASEAN+3蔵相会議で合意された「アジア債券市場育成イニシアティブ（ABMI）」をサポートしており、今回の企画もそうした活動の一環。ABMIでは、債券市場インフラや関連規制を整備してベストプラクティスを示すことにより、現地通貨建て債券市場の育成を促進することを目指している。アジア域内の膨大な貯蓄の域内での積極的活用に向け、作業部会による検討が進められており、今回の会議での議論の行方が注目されそうだ。

お問い合わせ先

駐日代表事務所

広報担当：望月 章子

T: +81 3 3504-3441/3160

E-mail: amochizuki@adb.org

ADBのニュースリリース（和文）は、下記URLにてご覧いただけます。

<http://www.adb.org/JRO/doc-news.asp>